

SEKISUI INTERIOR PRESS

SEKISUI INTERIOR supports you to make beautiful and comfortable interior decoration which is considered good for people and environment through "FINE DECO". We give you the latest information to help your interior decoration.

June 2008
SUMMER vol. 6
Sekisui Interior ISSUE

目指すのは、五感を潤すインテリア 家の中に「オアシス」をつくらう!

海の見える家に憧れる人は多いでしょう。住まいはまず、安心してそこで暮らせるシェルターであるべきですが、同時に、気持ちよく過ごせる場所でもありたいものです。たとえ密集した住宅地に建つ家でも、「ここにいると気持ちいい!」と思えるような空間にしたいですね。何をもち、「気持ちいい」と感じるのかは人それぞれかもしれませんが、自然を感じるときは、だれしも気持ちが安らぐのではないのでしょうか。そよ風ややわらかな光、そして季節の移り変わりを感じさせてくれる緑。五感に自然を感じるとき、人は前向きな気持ちになるような気がします。今回考えてみたいのは、自然を感じる家。砂漠の中で出会ったオアシスのような、ほっと心が潤うような場所にしたいのです。



建築家 椎名 英三 さんの家

光と緑と暮らす コンクリートの中の癒しの空間

電車の中もオフィスの中も、窓は閉めっぱなし。屋内はエアコンで、一年中同じ温度にコントロールするのが今や普通の環境です。だから、椎名英三さんの自宅にお邪魔したときはその気持ちのよさにびっくり。どこにその快適の秘密があるのか、じっくり拜見してみましょう。

リビングルームからの風景は、まるで一幅の絵のよう。美しいだけでなく、風にそよぐ葉の音や、さわやかな緑の薫りも、底なから感じて楽しむことができる。建具はすべて右の壁に引き込んで、すっきりと納まっている。



プラントボックスの東側は小さなテラス。限られたスペースは、リビングから数段下がり、緑に囲まれてくつろぐほど落ち着く。「ここでワインなんか飲んで過ごすよ、最高ですよ」と椎名さん。

センチほどのプラントボックスを設け、大らかに枝を広げ、四季の移り変わりを楽しめる山モミジ、常緑でさらさらとそよぐ南天など、椎名さんの好きな木を植えています。プラントボックスはL字型の建物に沿って伸び、東のコーナーでは小さなテラスに形を変えています。コンクリートの小さなテーブルを挟んで椅子を2脚置いただけのスペースですが、ここに座るとモミジの枝が木陰をつくるように覆い、不思議に落ち着いた場所となっています。

リビングルームの一方の壁はガラスになっていて、バスルームに隣接しています。バスルームの一角にも小さなプラントボックスがあり、クワズイモが艶やかな葉を茂らせています。バスタブの真上の天井は丸く繰り抜かれ、時間の経過とともに陽光が差し込んできます。リビングルームからガラス越しに見える、光とグリーンと水の気配。人が心地よいと感じる自然の要素が、満たされています。

自然が持つ生命感とともに、この家の魅力をつくっているのが、素材の持つ力です。コンクリートの壁と床の無垢の檜は、25年という年月を経て、へたることなく、穏やかに暮らしと解け合い、表情をさらに増しているように見えます。多くの素材が、時間が経つと途端に薄汚れてしまうことを考えると、使いこむことで風格を増し、そこで暮らした時間が美しく馴染む素材は、愛着の持てる家をつくるのに欠かせない要素なのです。



書斎コーナーで仕事をする建築家の椎名英三さん。住宅設計においては、制約を乗り越え、拡がりや響きを感じさせ、精神性を携えた、気持ちのよい空間をつくることに定評がある。



リビングルームからガラス越しに見えるバスルーム。上から差し込む光に緑が輝き、そのみずみずしさに心が和む。

建築家椎名英三さんの自宅は、東京、狛江市の住宅地にあります。昔から閑静な住宅地として知られているところですが、最近では世代交代の波を受け、大きな敷地だったところに、軒を寄せ合うようにして家が建つようになりました。それでもまだまだ緑多いこのあたり、椎名さんの自邸は細い道から、さらにアプローチを入った奥にあります。屋上に、なんと天文ドームをいただく個性的な外観。木々の緑に打ち放しコンクリートの壁が自然に溶け込み、年月の経過を教えてください。この家が建って、すでに25年が過ぎました。

建築家の家として、何もかも余裕を持ってつくられているわけではありません。階段を上ると玄関になっていますが、そこを室外にすることで狭さをカバー、階段から見上げると、上からの光が降り注ぐ、ドラマティックな舞台が待っています。

奥様と2人で暮らす住まいは2階のフロア。リビングルームを中心にして、キッチン、書斎コーナーとベッドルームを合わせて18坪。決して広いスペースではありません。でもリビングルームにはコンクリートの壁を長方形に切り取った大きな窓があり、窓の外に見える、輝くような緑に目を見張ります。

「狭さを克服する方法として、屋内外の空間を連続させるように考えました。建具を全て引込むと、窓というより大きな「開口部」が出現し、室外の風景を室内に呼び込むことができます」と椎名さん。窓の高さは床からちょうど38センチ。腰掛けるにはちょうどいい高さにもなっています。

窓の外には、奥行き 50





**1本の大きな木で、
部屋の中に木陰が生まれる**

南フランスやイタリアの田舎でよく見かける風景。大きな木の下でテーブルで食事をする。気持ちよくなって楽しそうです。そんな景色をイメージして、部屋の中にのびのびと枝を張ったグリーンを置いてみました。ヤマモガシ科のステノカルパスという種類の木です。部屋が狭くなるからと、ついこぶりのグリーンや、まっすぐ上を向いたグリーンを選びがちですが、思い切って大きな木を1本、置いてみましょう。部屋の中に木陰が生まれ、そよ風の気配さえ感じます。鉢の土が乾いたら、鉢底から水が出るまでたっぷり水をやってください。時々、霧吹きで濡らした葉を軍手をはめた手で拭くと、病害虫の予防にもなります。肥料は5～10月の生長期にやるといでしょう。おなじみベンジャミンでも、自然に枝をのびた木なら木陰が生まれます。



**涼しくて、みずみずしい、
アクアプランツはいかが？**

夏。せせらぎの音や水のゆらめきのある場所が恋しくなります。庭に池を持つことはかなり難しいけれど、陶器の鉢や大ぶりのガラスの花瓶に、水草を育ててみませんか？ グリーンコーディネーターの江田俊子さんが提案してくれたアクアプランツは2タイプ。浮き草を楽しむ陶器の鉢は、水面が広く見えるものを、きれいに洗った石を底に敷いて、ホテイアオイやウォーターボビーを浮かせました。ガラスの花瓶は、横からの眺めも楽しめるので、茎の長い水草を底の砂に植え込んでいます。ここまででしたら、やっぱりメダカを飼いたくなります。ひと晩おいて、カルキを抜いた水をオーバーフローさせての水替えは5日に1回くらい。ガラスの花瓶の場合は、外では熱くなりすぎるので、室内で楽しんでください。水にゆらめく緑、見え隠れるメダカの姿は、いかにも涼しげ。それに、部屋の中の生き物って、なんだか癒されるんですね。



5 five idea
家の中をオアシスにするための
5つのアイデア

熱波に沸騰する町をクルーズし、ソンドラオフィスでコンピュータと格闘する。
ストレスにまみれた毎日を癒してくれるのは、
年に一度のリゾートではなく、毎日過ごす我が家であってほしいもの。
あー、早く帰りたい、と思えるオアシスにするために頭を絞ってみました。

美しい空気清浄器、FUGAの炭のオブジェ

嫌な匂いを吸収してくれる、湿気を吸い込んでくれる。また保温性があったり、遠赤外線効果があったりと、炭には思わぬ効果があるようです。東京、青山にある花屋さん「FUGA」では、そのままオブジェになる炭を提案しています。写真は蓮の花と実の炭。ほかにも松ぼっくりや葉のイガの炭なども。コンソールテーブルの上に飾ったり、トレイの上に並べてもきれいです。11月くらいになると、新作がお店に並ぶので、要チェックです。

FUGA (TEL03-5410-3707)



**壁材にも自然素材を使って、
ストレスのない家にする**

建材に含まれる化学物質が気になる人も多いことでしょう。そこで注目されているのが「シラス壁」。鹿児島県と宮崎県にまたがる「シラス台地」をつくっている火山灰からつくられた壁材です。多孔質のシラスで塗られた壁は、湿度をコントロールし、断熱性にも優れ、匂いやホルムアルデヒドなどの有害物質を吸着する性質をもっているため、シラス壁の部屋はベットやタバコの匂いがせず、雨の日のじめじめした感じもしません。夏でも部屋の中はひんやり涼やか。100パーセント自然の素材でつくられたシラス壁なら、室内の空気



を、健康で、気持ちのよいものにしてくれそうです。神奈川県横浜市に、シラス壁を使用した体験住宅があるので、まずは体で感じてみてはいかがでしょうか。
株式会社高千穂 (TEL045-224-6070)

自然な香りで癒される

リラックスするのは、人工的な強い香りではなく、自然から生まれた穏やかな香り。インテリアの最後の仕上げは、空間をグレードアップする上質な香りです。左から、アクアミストは、ユーカリ 1,995円 ニューヨーク発信のアロマキャンドル。ソイ(大豆)を主原料に、植物性のオイルでつくられています。「ホワイトジンジャー」の香り 3,780円 セラミックのキャンドルホルダー 1,050円 プールのガラスホルダー 2,100円 中のキャンドルは「アールグレーティアー」「シャンパン」各 735円/以上すべてSTYLE MEETS PEOPLE (TEL03-5413-3705) フランス「コテバステッド」のルームフレグランスはリラクゼーションの香り 6,720円 アメリカ「アンティカ・ファルマシスタ」のディフューザー 11,550円 白樺の専用スティック 1,050円 白い陶器のアロマポット。受け皿の水に落としたエッセンシャルオイルを温めます。キャンドルで温めるタイプ 2,625円 電球の熱を利用するアロランプ 2,520円/以上すべてスパイラルマーケット (TEL03-3498-5792)



Close Up

showroom & shop



CASSINA IXC. Ltd.

イタリアで最も高いステイタスを誇る トップブランドを日本に、 「カッシーナ・イクスシー」

インテリアに興味がない方にもその名が知られている「カッシーナ」。イタリアのみならず世界のトップブランドといえる完成度の高さは、ニューヨーク近代美術館の永久所蔵品に数多くの製品が選ばれているほど。今回は、「カッシーナ」を中心とした限りなく魅力ある家具を日本に広げるカッシーナ・イクスシーをご紹介します。

顧客満足を最優先した、 デザインと品質は 常に頂点をめざし続けている

カッシーナ・イクスシーは、イタリアのモダンファニチュアのリーディングブランド「Cassina カッシーナ」と、オリジナルブランド「ixc. イクスシー」にて、海外の選りすぐりの製品をセレクト・開発・販売するなど、独自の審美眼と選択眼を持った提案で、洗練されたライフスタイルや嗜好を充たす、マルチプルなコーディネートを展開しています。

その中心的存在「カッシーナ」は、17世紀にイタリアで誕生した300年もの伝統を誇る、家具業界では数少ないリーディングブランドとして知られています。「カッシーナ」製品の完成度の高さとデザインの美しさは、他の追随を許さず、数多くの製品がニューヨーク近代美術館の永久所蔵品になっているほどです。また、このような普遍的で妥協を許さないクオリティは、オリジナル製品のixc.にも受け継がれ、顧客満足度を最優先とし、頑なにデザインと品質にこだわり、企業コンセプトに合わない



製品は絶対に販売しないとまで断言する情熱にも表れています。

それは、企画・デザイン・製造・卸販売・小売り・メンテナンスまで、すべてを一貫して自社で手掛けることができる日本でも唯一とも言える独自の方式によって、デザインと品質にまっすぐであることが実現できているのです。



イタリアの多才なデザイナー、 マリオ・ペリーニが 手掛けた画期的な革の椅子

「カッシーナ」は一貫して、ヴィコ・マジストレッティ、マリオ・ペリーニ、フィリップ・スタルクなど、現代を代表する建築家、デザイナーとのパートナーシップにより、数々の名作を世に送り出してきました。

日本でも馴染みのマリオ・ペリーニによる「カッシーナ」のCAB(キャブ)アームチェア。ペリーニもマジストレッティと同じくミラノ生まれで、イタリアのインダストリアル界の巨匠であり優秀な建築家でもあります。日本でも電子オルガンや電気ポット、小淵沢のホテル・リ

ゾナーレなどを手掛けているので、ご存知の方も多いはず。

そんなペリーニの仕事の中でも、特にこのキャブアームチェアは、金属フレームに厚革のジャケットを被せるという画期的な発想のイタリアンモダンを代表する作品となっています。背もたれのフィット感が抜群の座り心地を実現。独自の厳しい基準をクリアした最高級のなめし革がクオリティに高級感と味わい深さを与えています。また、見た目より思いのほか軽く、座面が低いので日本人の体にフィットしやすいのではないのでしょうか。ダイニングテーブルにアームレスチェアと一緒に置くケースも多いのですが、全く違和感なくおさまります。



いつかこんなラウンジチェアで寛ぎたい そんな気分にする椅子があります

そして、もう一脚ご紹介したいのが、「デ・バドヴァ」のLouisiana(ルイジアナ)というラウンジチェア&オットマン。イタリアデザイン界の巨匠ヴィコ・マジストレッティが手がけたものです。マジストレッティはミラノに生まれ2006年に亡くなるまで、数多くのすぐれた家具をデザインし、12点の作品がニューヨーク近代美術館の永久所蔵品となっています。

このルイジアナもマジストレッティのような円熟したデザイナーだけが実現できるク

オリティで、背面を厚手の革、体に直接触れる背と座はざらりとしたファブリック、もしくは柔らかい革を使った贅沢な作りのラウンジチェア。デザインに過度な自己主張はありませんが、明確なコンセプトが感じられ、シンプルでエレガントな心地よさを感じる名作です。実物を見ると一目惚れしてしまいそうな不思議な魅力があります。



COORDINATOR'S EYE

06

エコロジーな暮らしでもある、一生ものの家具との出会い

カッシーナ・イクスシーが提案する家具は、一生付き合えそうなものばかり、いつまでも色褪せない新鮮なデザインと妥協を許さない品質は折り紙つきです。使い込むほどに味わい深くなり、子供たちの代にも受け継いでいけるだけの価値があるのではないのでしょうか。それは、いまの日本人が忘れかけている、モノを永く大切に使うということを知らせてくれます。私たちセキスイインテリアのファインデコでも提案している愛着ある家具とのエコロジーな暮らしでもあります。また、カッシーナ・イクスシーのショールームは、暮らしのシーンで見れる「洗練された生活空間」が魅力。私たちインテリアコーディネーターがさまざまなヒントをもらう場所でもあります。皆さんも一度お出かけになってはいかがでしょうか。



topics

トピックス

人に環境にやさしいインテリアをめざす「ファインデコ」。
セキスイインテリアとして皆様の住まいづくりに役立つ
耳寄りな最新情報をセレクトして、いち早くお伝えします。

ご存知ですか?地球環境にやさしいLED照明。住まいのあかりとして広がりはじめています。

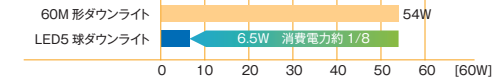
地球温暖化は、いまやサミットでも重要なテーマとされる世界的な課題であり、私たちの暮らしにとっても身近な問題です。そんな中、今年4月に経済産業省が、家庭用照明の白熱灯を廃止し、省エネ型の電球型蛍光灯に転換を促す方針を固めました。平成24年末までに、すべての白熱灯を置き換えることを目指しています。そこで今回は、コイズミ照明株式会社様にご協力いただき、あかりの省エネをテーマに、蛍光灯に続く第4世代のあかりとして期待されているLED照明をご紹介します。

驚くほど、地球に、暮らしにやさしいLED照明

LED照明にはこれまでの光源にはない、さまざまな長があります。その中で最も注目したい特長は、消費電力が少ないことと長寿命であること。たとえば、コイズミ照明では、白熱灯60W形ダウンライト(※1)に相当する明るさを6.5Wで実現。白熱灯に比べ消費電力がなんと約1/8で、大きな省エネ効果を生み出すことができます。また、寿命についても約10年、約40,000時間(※2)の長寿命を実現。1日10時間の点灯で約10年間ランプ交換が不要に。だから、長時間点灯する常夜灯やランプ交換が困難な場所にも最適なのです。

※1: 60W形(54W)クリプトン球使用時
※2: 光束維持率が初期値の70%になるまでの点灯時間

●消費電力約1/8



●ランプ寿命約10年



インテリアからエクステリアまで快適なあかりを



以前から省エネ性は注目されながらも目にまぶしい光や室内用には明るさが不足するなど、あまり実用的でなかったLED照明でしたが、コイズミ照明ではグレア緩和パネルでまぶしさを和らげ、光学レンズ設計で明るく使いやすいあかりを実現。光の色も電球色と白色の2種類を揃え、さらに色を鮮やかに演出する高演色タイプ、明るさを重視した高効率タイプから選べるまでに。また、パワフルでありながらコンパクトな設計で用途もグンと広がりました。高気密住宅への対応には、まだ課題がありますがインテリアからエクステリア用まで豊富な品揃えで、さまざまな空間に対応できるようになっています。これから新築やリフォームをお考えの方は、地球に、暮らしにやさしいLED照明を検討されてはいかがでしょうか。

LED照明って、どんなあかり?

白熱電球が発明されて100年以上が経ち、蛍光灯が発売されてからも70年が経とうとしています。そして今、蛍光灯に続く第4世代のあかりとして期待されているのがLED照明です。ご存知のとおりLEDは、発光ダイオードで、電気を流すと発光する半導体の一種です。現在、LEDは、携帯電話やデジタルビデオカメラなどの電子機器のバックライト、大型ディスプレイなどのメラなどの電子機器のバックライト、大型ディスプレイなどの表示用を中心に普及し始めています。また、交通信号や自動車用ランプなどにも普及し始めています。住宅用の照明としても1998年白色LEDが実現されて以来、急速に商品開発が進み、最近では省エネ光源として注目を集めるようになりました。

INTERIOR ITEM

series 05

Rina Menardi

デザイナーが選ぶ インテリアアイテム

インテリアショップでこの器を見つけた時、とても存在感があるのに、さりげなく佇んでいる雰囲気に心奪われました。表面のやさしい生成り色のグラデーション、糸を巻きつけたようなくし目の入り方、なだらかな曲線。手造りのためどれひとつとして同じものもなく、その美しさをしばらく眺めていたほどです。その後、この作品はリナ・メナルディというイタリア・ベニス郊外の陶器デザイナーのものだということを知りました。彼女が古代土器の形や製法を意識していた初期の頃の作品で、和の空間にもしっくりなじみます。そこにあるだけでなく、上質な空気が流れ、インテリアの主役にもなってしまう、そんな器との出会でした。

名古屋支店
金児 かおり



イタリア・ベニス郊外のポルトグルアーロの工房で活動続けるリナ・メナルディ。自然をこよなく愛する彼女は粘土のもつ温かさを人の手によって表現することにこだわり続けています。彼女の作品の質感や形は、時が経つにつれて温もりのあるものにその表情を変えてゆきます。

取扱ショップ: Carafe(052-809-5500)

REPORT

インテリアコーディネーターのミラノサローネ・レポート!

4月16日~21日の6日間、ミラノ国際家具見本市(通称:ミラノ・サローネ)は、期間中35万人近くが世界中から来場するビッグイベントだけのことはあり、最新のトレンドに直接触れることができ、インテリアコーディネーターの私にとって刺激的な体験でした。私が全体的に受けた印象は、日本人デザイナーの活躍と「素材で遊ぶ」と「和のエッセンス」を感じさせるものが目立っていたこと。その様子をちょっとご紹介いたします!



素材で遊ぶ

最初に目についたのは、イタリアらしいポップなカラーリングの家具と同じくらい、異なる素材感で表現されたシックな家具が多かったこと。たとえば、白の鏡面と白い木目のコンビネーションや、ウォールナットと大理石の組み合わせなど。また、様々なメーカーが積極的に採用していた素材がミラノ。形にも工夫し、そこに映った景色や空間をアートのように楽しむ遊びどころがとても印象的でした。

和のエッセンス

そして、もうひとつの注目は[ZEN][JAPAN]という感じの、和を意識したインテリア。モダンデザインの椅子を着物柄でカバーリングしていたり、システム家具の組み合わせで床の間のような壁面をつくらしたり...いわゆる「和風」ではなく、新しい和モダンスタイルとして日本の住まいでも参考にできそうなアイデア。今回見てきたさまざまなインテリアデザインを今後の提案に生かしたいと思っています。

大阪支店
中山 裕史

Book

おすすめブック

これからの季節、
水草で涼しげな暮らし
はじめてみませんか?



今年も暑い夏がもうそこまで...地球を守るためにもエアコンばかりに頼らず、暮らしの工夫で涼しげに。そこで、目から涼をとるアクアリウムなどはいかが。水にゆらゆら、水草を見ていると癒されます。「かんたんきれいはじめての水草」は、とっても親切なビギナー向けの一冊。めだかも一緒に飼ってみませんか。

「水槽で屋外で小さな器でかんたんきれいはじめての水草」
月刊アクアライフ編集部編 マリン企画 1,470円(税込)

セキスイインテリアは、チーム・マイナス6%に参加しています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

FAIR

国内一流メーカー勢ぞろいの「インテリアフェア」を7月に開催します!



開催日: 7月12日(土)10:00~18:00
7月13日(日)10:00~17:00

会場: 新宿アイランドアークプラザ
〒163-1312 新宿区西新宿6-5-1
新宿アイランドタワー B1

※両日とも予約制となりますので、お手数ですがご予約をお願いします。

お問い合わせ

セキスイインテリア主催の「インテリアフェア」を7月に開催します。国内の一流メーカーのおすすめ商品を一度に見ることができる数少ないチャンスです。ぜひ、この機会にご来場ください。お待ちしております。

東京(営): 03-5806-8231
神奈川(営): 045-820-3203
千葉(営): 043-297-3015
埼玉(営): 048-647-1080
定休日: 火曜日・水曜日

セキスイインテリア株式会社

お問い合わせは下記ホームページまで...

<http://finedeco.jp>